



一隅を照らそう
2月号

361号
毎月28日発行

E-mail: info@tougakuin.jp



お経の読誦

住職 中島 有淳

今年元旦の初日より能登半島地震が発生し、二日には羽田の航空機事故で機体が炎上し、それらのテレビ中継は実に生々しく不安の幕開けとなりました。

特に能登半島の地震は、その災害規模は日が経つにつれ増大し、被害は甚大な規模になってしまいました。亡くなられた人や被害にあわれた方々に心よりお悔みと、お見舞いを申し上げます。

自然災害の多い日本列島です。いつ発生するか解らないこうした出来事に、日々の平穩を祈らずにはいられません。

毎日を無事に過ごせる有り難さに感謝して暮らすべき、とつくづく思い知るのです。

二月三日の「節分会」は古来より日数心経といつて般若心経を何編もお唱えします。このお経は二六二文字の短いお経ですが、日本で多くの人に唱えられてきた最も有名なお経の一つです。

「観音さまは般若波羅密(悟りに到る智慧の完成)を実践していたとき、この世のすべてのものは空(完成)であることを見極め実践したとき、この世のすべてのものは空(実体のないもの)であることを見極め、一切の苦しみと災いから救われる道を示された」とあります。つまり真実の智慧の完成によって空を悟り、彼岸へと到ることができるといふ経典です。

とは言え実際に何編もお経を読誦しておりますと真剣に唱えようとすることはありますが、なかなか気持ちが集中して唱えることが難しいと解ります。つまりお経を読んでいる最中にも、種々な思いが頭の中をよぎり、かけめぐってしまうのです。これではいけないと集中しようとするのですがうまくいきません。お経を集めて読誦するのは実に難しい。

しかし、よく考えるとこの自分が散心している、気が散っていることを自覚するときには、すぐそこには散心の反面の「摂心」という世界が想定されるのです。その世界と相対して自分が存在している。散心でお経を読んでいるが、摂心の世界の気持ちというものと離れてはいない。

このことは、つまり散心でお経を読んでもしまつても、実際は真実の世界、悟りの世界を離れていない、ということなのです。自分が散心で読んでいるという自覚を持ったところに真実の世界があらわれてくるので、自覚を持たないで散心のまま読んでいるたのでは散心が始まってそのまま終わってしまうわけです。

散心では申し訳ないことと考えた時、そこに散心が真実(仏)の世界と隣り合つて相い接し、この時の二方向の観心が散心に裏付けされて大きな力を付与されるのです。

事と理が一緒の世界にありながら、事の世界に大きく引き寄せられ心が開かれ和むことがある。ここが開悟の微妙の世界というわけでしょう。

折りふしのはな

雲間草(くもまぐさ)

雨上がりの午後

まだまだ冷たく

公園は少し

ぬかるんでいるのに

幼児たちは

いつの間にかはだしになり

キャツキャツ言いながら

遊んでいます

すべり台を行ったり来たり

降りては登り

キャツホ——！

冷たくないの——？

ダイジョブ ダイジョブ

雲間から ほんの一瞬

太陽が顔を覗かせました

(遊)



行事案内

◎節分会 二月三日 午後二時

◎毎月八日 午後二時

薬師如来祈祷会 観音経読誦

◎毎月十二日 午後二時

智泉院法要日(於・日本橋茅場町)

◎毎月十八日 午後二時

観音経読誦法要(於・神木観音堂)

◎毎月二十八日 午後二時

不動明王護摩供修行

* 毎朝六時より公開で朝のお勤めをしております

ご都合のよろしい時には「一緒」まで

月例「止観(坐禅)会」…
2/10(土) 9:30~10:30 (500円)

能登半島震災救援募金

一月一日に発生した能登半島震災の救援金を募集
ご協力をお願い致します 合掌

◎締切日 三月十五日

* 「天台宗災害対策本部」へ寄託送金します

神木山

あともがき

○自民党のパーティーによるキックバック事件は派閥の解散へと進展し騒然としています。年明けの種々な出来事に世の中は騒然。○能登半島地震は天台寺院も七ヶ寺が被災。この辺りは真宗や禅宗の多い土地柄で、相当数の寺院群が被害を受けた様子です。○前米大統領トランプ氏の勢いが盛んのようにです。いくつもの事件で告発された身でありながらこうした強気の姿勢はどんな事情なのでしょう。理解に苦しむ出来事が多すぎます。○スポーツは判りやすい世界です。大相撲新入幕の大的の活躍は観ていて楽しくなります。○院内の紅梅や白梅が咲き、芳しい香りを放っています。合掌